

令和 7 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立上黒瀬小学校

学校長名 水戸 美穂子

1 研究主題

進んで考え、深く学ぼうとする児童の育成
～「しかけ」を通して進んで表現する授業づくり～

2 研究主題設定の理由

本校は算数科に、児童の学びに焦点を当てて研究を進めてきた。まず、児童に自信をもたせ、分かる喜びを感じ、自ら学ぶ児童を育成するために、一連流れをもった授業モデルである「上黒瀬小学校授業モデル」を確立し、授業の中で、優先すべきことを意識した授業づくりを行ってきた。さらに、児童にとっての学びを深めていくために、単元構想や授業の構想に「問いを生むしかけ」を仕組むことを行った。算数科授業に「しかけ」を盛り込むことで、児童の進んで考える姿勢や、問題の本質に迫り、深く学ぼうとする姿に一定の成果が見られるようになってきた。教職員も、「しかけ」のある授業を構想していくことで、より深い教材研究と授業の達成感とを感じることになってきている。しかしながら、アンケート結果によると児童の学びに対する自信に関して、伸びはあるものの、十分に自信をもって「わかった」「できた」という実感をもてていない課題が見られた。

そこで、本年度は、算数科の授業において、上黒瀬小学校授業モデルを基盤とし、以下の３点に留意した学習活動を行うこととする。「問いを生むしかけ」を仕組んだ授業構成を行う。そして、児童理解の立場に立ったファシリテーション活動を重視していく。特に、「児童理解に立ったファシリテーション活動」では、児童の思考・理解の過程、および、表現活動において ICT の活用を行い、「なんでだろう？」「どうなっているのだろう？」「解決したい！」「確かめたい！」という児童の思いや理解を支える。さらに、児童の「わかった」「できた」という感覚を改めてもたせるために、表現の場を設定する。自分の考え・理解した内容を、まとめることで理解を深め、自信をもって表現できるようするとともに、個に応じた指導を行う。さらに、目的をもたせた振り返りをするとともに、何が「わかった」「できた」か、次はどんなことがしたいかを把握する。こうした学習活動によって『深く考え、自信をもって表現する児童の姿』に近づけることができると考え本研究主題を設定した。

3 研究仮説

「問いを生むしかけ」と「児童理解に立ったファシリテーション活動」により児童が必要感をもって自分の考えを表現する授業づくりをすれば、進んで考え、深く学ぼうとする児童を育成することができるだろう。

4 研究内容

1. 「しかけ」のある学習活動

【「問いを生むしかけ」の例】

しかける場面

- | | |
|--------------|------------------|
| ・「教材」でしかける | ・「リアクション」でしかける |
| ・「問題提示」でしかける | ・「見取り」からしかける |
| ・「板書」でしかける | ・「発表・話し合い」でしかける |
| ・「ノート」でしかける | ・「まとめ・振り返り」でしかける |

しかける方法

- | | |
|--------------|------------|
| ・解けなくする | ・部分を隠す |
| ・場面を曖昧にする | ・基準を隠す・変える |
| ・〇〇づくりゲームにする | ・結果だけ見せる |
| ・分類ゲームにする | ・〇番目を問う |
| ・一瞬だけ見せる | ・式からスタートする |
| ・使えなくする | ・条件をずらす |
| ・情報を多くする | ・目的をずらす |

【深く学ぼうとする姿の例】

算数の学びを通してはぐくみたい力を姿と捉える。

- ア 他者の考えを式や図、言葉などから読み取ろうとする
- イ 演繹的・帰納的・類推的に考えようとする
- ウ 算数の技能を身に付け、表現しようとする
- エ 共通点や相違点に着目して多様な方法で考えようとする
- オ 情報を選んだり集めたり、分類・整理、分析、活用したりしようとする
- カ 目的に合わせて、場面や条件を変えて考えようとする
- キ 構成要素や性質に着目して考えようとする
- ク 既習の概念を拡張させて、見方・考え方を発展させようとする
- ケ 生活中にある算数を見つけたり、算数の美しさに気付いたりする

2. 「児童理解に立ったファシリテーション活動」について

- ・児童への共感的理解と実態把握
- ・ICT を活用した学習内容の理解
- ・ICT を活用した思考の表現活動

3. 「表現の場」の工夫

- ・自信をもたせて表現の場に向かわせる教師の支援
- ・児童の熟考と思考の整理を支えるノート、ICT の活用
- ・上小授業モデルについての振り返り

【上小授業モデルの発展としての振り返り～目的をもたせた振り返り～】

基本

①自分の問いに対して

振り返らせたいねらいに応じて、②③いずれか又は両方振り返らせる

②他者の考えとの比較について

③次にやってみたいことについて

5 検証計画

検証の視点	実施時期	検証の指標	達成目標
「問いを生むしかけ」によって、児童が進んで考えることができたか。	6月 12月	児童アンケート	肯定的評価 85%以上
		教師アンケート	評価値3.2以上
「問いを生むしかけ」によって、児童が深く考えることができたか。	6月 12月	児童アンケート	肯定的評価 85%以上
		教師アンケート	評価値3.2以上
		児童の振り返りの記述	